

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立北部中学校	学校No.	51
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>目 標： コロナでも優しい心であるように、緑化活動を推進する。</p> <p>計 画： 年度末・年度初めの見ごろを目指し、12～2月に活動する。</p> <p>推進体制： 校務主任、美化担当、美化委員会、外掃除担当生徒</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>委員会、清掃の時間を利用して、花の球根植え、種まき、苗植えを行った。</p> <p>美化委員が当番として、水やりを行った。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>自分たちが植えたこともあり、水やりまでしっかりと行っていた。また、春が近づくにつれ、日に日に花も増え、校内が色鮮やかになってきている。そのことで「お花きれいだね」と、先生や級友にほめられ、美化委員会、そうと掃除の生徒たちは満足げであった。</p> <p>ただ、一部の生徒での活動であった。今後より多くの生徒が緑化推進に携わるシステムづくりの必要がある。</p>			
			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 5 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立中部中学校	学校 No.	5 2
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校は「社会福祉への関心と理解をいっそう深め、交流や体験を通して『福祉の心』を育てる」というねらいをもって、福祉教育を推進してきた。本年度も、「社会福祉推進校として、人権教育、思いやり教育の推進」を重点目標として設定し、福祉教育推進委員会、学年、生徒会を中心に以下のような目標を掲げ、計画立案、実践に取り組んだ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○福祉実践教室を通して、支え合いながら共に生きる社会づくりを理解するとともに、日常的な実践活動の契機とする。</p> <p>○ボランティア体験活動、勤労・福祉体験活動を通して、弱者への配慮と勤労の喜びを体験し、今後の社会生活に生かす。</p> </div>			
<p>2. 福祉教育の具体活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) 福祉実践教室（R5.10.20）</p> <p>初めにビデオ視聴をし、障害のある方の立場を理解するとともに、実際に自分たちに何ができるかを考えた。実践教室当日は、最初に講師の方からお話を伺った後、車いす体験、手話、高齢者疑似体験、点字、視覚障害者ガイドヘルプ、認知症理解の各講座に分かれ、講師の方のお話を聞いたり、実際に体験をしたりした。体験後の感想には「障害があるからといって、不幸なわけではなく、手を取りあって生活していくことが大切」や「今日学んだことを生かして、もし身体の不自由な方が困っている場面に出会ったら、手助けをしたい」などとあった。福祉実践教室を通じて、すべての人が共に助け合いながら生きていくために必要な「心の持ち方」と「行動のとり方」について学ぶことができた。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p>(2) 中中夢トーク（R5.12.18）</p> <p>「中中夢トーク」は、現在社会の中で活躍してみえる中部中の先輩から「自分が頑張ったことや壁を乗り越えたことなどの体験談」や「自分が心がけていること」などのお話を聴くことで、現在在学中の中中生がこれから夢や目標に向かって頑張っていくための「きっかけ」や「ヒント」をもらいたいと考えて開催した。ミュージシャンの清本りつ子さんの話を聞き、五感をフルに使い、いつまでも周りから吸収していくことの大切さについて学ぶことができた。</p> </div> <div style="flex: 1;">  </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="flex: 1;"> <p>3 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>福祉実践教室では、障害をもっている方々の生活を体験することで、障害者の方々にどんな気持ちで接するとよいか、またどんな援助ができるのかを考えるよい機会となった。福祉の実践とは、思いやりを行動に移すことだという基本的な心構えも学ぶことができ、今後もこのような機会をもてるとよいと感じた。</p> </div> <div style="flex: 1;">  </div> </div>			

令和 5 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立南部中学校	学校 No.	53
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>(1) 本校の教育目標 心身ともに健康で、知・徳・体の調和のとれた、思いやりのあるたくましい生徒を育成する。</p> <p>(2) 福祉教育目標 社会福祉に関する実践学習を通して、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア・社会連帯の精神を養う。</p> <p>(3) 手立て・計画</p> <p>①体験活動…障害者の立場を理解する体験や障害者の活動を支援・援助する体験活動を行う。</p> <p>②理解を深め、意識を高める…障害者を理解し、思いやりのある接し方を身につけることで福祉・ボランティアの意識を高める。</p> <p>③実践力を養う…広くボランティア活動参加を呼びかけ、いろいろな場を実践させることで、進んで福祉活動、ボランティア活動ができる生徒を育成する。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>4月・浅野つつじ祭りボランティア参加 7月・R5年度青少年等ボランティア体験学習事業参加（夏休み利用） 11月・赤い羽根共同募金の実施 12月・緑化委員が運動場のフェンス周りにパンジーの苗を植える緑化活動を行った。</p> <p>・講演会「不可能が新たな可能性を生む」 穴澤 雄介氏（盲目のヴァイオリン奏者） ・「人権啓発動画「『誰か』のことじゃない」障害のある人編視聴・意見交換</p> <p>1月・福祉実践教室開催 ・1年を通してのあいさつ運動、リサイクル活動</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>今年度は、コロナウイルス対策も一段落し、様々な福祉活動、ボランティア活動を再開することができた。委員会や生徒会など校内で実施できる活動や、福祉実践教室では、社会福祉協議会の方々と協議を重ね、グループワークを取り入れた活動を行うことができた。各グループでの体験を通して、障がいをもつ方やその支援に携わる方の生活や工夫について学ぶことができた。生徒の書いた感想には、様々な立場や視点から物事を考え、自分にできる行動をとっていきたいといった記述が多く見られた。福祉実践教室での学びと生徒の実際の生活をつなぐことができるような活動の場を設定すると、実践力のよりよい育成につなげることができると考えられる。また、夏休みを利用してボランティア体験学習にも参加することができた。希望者が多かったので、3年生を中心に参加することにしたが、来年度は1，2年生の希望者も参加できるよう機会を増やし、多くの生徒がボランティア活動に興味を持ち、参加できるよう計画していきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 5 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立葉栗中学校	学校No.	54
-------	-----------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は平成4年度に、社会福祉協力校の指定を受け、「社会福祉への関心と理解をいっそう深め、交流や体験を通して『福祉の心』を育てる」というねらいを持って、福祉教育を推進してきた。本年度も、「一宮特別支援学校との交流、社会福祉推進校としての取り組み等を通じた人権教育、思いやり教育の推進」を重点目標として設定し、福祉ボランティア委員会、各学年、生徒会を中心に以下のような目標を掲げ、計画を立案し、実践に取り組んだ。

- 一宮特別支援学校との交流を通して、障がいのある方への理解推進を図る。
- 福祉実践教室を通して、支え合いながら共に生きる社会づくりを理解するとともに、日常的な実践活動の契機とする。
- ボランティア体験活動、勤労・福祉体験活動を通して、様々な人への配慮と勤労の喜びを体験し、今後の社会生活に生かす。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 活動名 特別支援学校交流 (1年)

(2) 活動時期 6月 11月

(3) 活動計画 6月 2クラスごとに分かれ、互いの学校で交流会
11月 2クラスごとに分かれ、互いの学校で交流会

(4) 活動状況

本年度は一宮特別支援学校の生徒と本校の生徒がそれぞれ2クラスから、さらに14のグループに分かれ、事前に自己紹介のメッセージを送りあった上で、実際に交流会を図った。

(5) 成果と反省

昨年度はオンラインの交流会とおもちゃの制作であったが、今年度は実際にお互いの学校で交流会を行うことができた。内容としては、初めに自己紹介を行い、『さいころダッシュ』と『ぐらぐらリレー』のゲームをそれぞれの学校で行った。交流会をする上で、「お互いを知る」ということから、自己紹介カードを作成したが、多くの生徒が一宮特別支援学校の生徒の自己紹介カードを見ながら、好きなものは何か、喜んでもらうにはどうしたらよいかを考え、試行錯誤しながらカードの作成に取り組んでいた。完成したカードを一宮特別支援学校に届け、当日一緒にいるグループのカードを見てもらった。当日の交流会では、自己紹介カードを持参してもらい、カードを見ながらお互いに自己紹介をし、ゲームもそれぞれの学校で大いに盛り上がっていた。その後、一宮特別支援学校からは生徒が書いたお礼の手紙を送ってもらい、思い出を振り返ることができた。



【交流会の様子】

3 福祉教育の成果と今後の課題

本校では、めざす生徒像の一つとして「心豊かな生徒の育成」を掲げている。一宮特別支援学校との交流も約30年続き、福祉推進校としての活動は30年を数えている。直接交流の場を今後も続けていきたい。

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立西成中学校	学校No.	55
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に関する実践学習の機会を通して、福祉への関心を高める。 <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室、一宮東特別支援学校との交流会、ボランティア福祉体験学習、生徒会による募金活動やあいさつ運動 などの実践 <p>推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室は、1年学年主任を中心に計画し、第1学年の学習内容として活動を行う。 ・一宮東特別支援学校との交流会は、2年学年主任を中心に計画し、第2学年の学習内容として活動を行う。 ・ボランティア福祉体験学習は、福祉教育担当教師が中心となり、他の教職員の協力を得て進める。 ・生徒会による募金活動やあいさつ運動は、生徒会担当教師が中心となり、定期的に活動を行う。 <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室（5月） 「車椅子」「ガイドヘルプ」「高齢者疑似体験」「手話」「点字」の5つの講座の中から1つの講座を受講して、さまざまな体験活動を行った。 ・一宮東特別支援学校との交流会（12月） 一宮東特別支援学校の生徒を本校に招き、交流会を実施した。本校生徒が企画したレクリエーションに参加したりダンスを踊ったりすることで、交流を深めた。 ・ボランティア福祉体験学習（7、8月） 参加希望者を募り、「あいふるの里」「たんぼぼ加茂の里」「あすか」の福祉体験学習に参加した。 ・募金活動（5月、11月） 「緑の羽根」「赤い羽根」の募金活動を行った。 ・あいさつ運動 PTAと職員、代表生徒が連携し、生徒が登校する時間に門に立ち、あいさつを交わした。 <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>成果</p> <p>福祉実践教室では、生徒一人一人に対して体験活動をさせることができ、障がい者の生活や気持ちを理解させることができた。 一宮東特別支援学校との交流会では、楽しい交流会にするために、様々な企画を検討したことで、相手のことを考えて準備をする大切さを学ばせることができた。</p> <p>今後の課題</p> <p>コロナ禍前はユニセフ募金を行っていたが、今年度も実施することができなかった。 生徒会執行部を通して、ユニセフの活動内容を生徒に紹介し、貧困に苦しんでいる地域について考えさせ、募金活動につなげていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。